

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2007; 92: 121-124	ハプトグロビンおよび抗トロポニンBの2つの異なる調整液にヒトパルボウイルスB19を加え、60℃で10時間処理した。異なる調整液中のB19は加熱中異なる熱感受性パターンを示し、ハプトグロビン調整液中では緩やかな不活性化、抗トロポニン調整液中では限定的な不活性化であった。異なる調整液を用いた以前の研究ではB19は迅速に不活性化され、今回の不活性化の動力学とは大きく異なる。B19の熱感受性は溶液組成に大きく依存する。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Transfus Clin Biol 2006; 13: 320-328	血液製品によるプリオン感染症例は今まで見られていない。国によって対策は異なるが、vCJDやBSEのある国の疫学的調査、特定の期間にBSE発生国へ旅行したり、住んでいた人や輸血や組織移植を受けた人に対する供血延期措置、血液中の白血球除去、複雑な産業的分画過程でのプリオンの除去などが行われている。エタノール分画、デブスフィトリオンおよびクロマトグラフィーは数logのプリオンを除去できる。またナノフィルトレーションもプリオン除去に有用な方法である。
												鳥インフルエンザ	Transfusion 2007; 47: 452-459	血液製剤の製造中に通常使われるウイルス不活性化処理、即ち、ヒトアルブミンのバスター、静注用免疫グロブリン(VIG)のSD処理、第VIII因子インヒビター/ハイパス複合体製剤の蒸気加熱、及びVIGの低pHインキュベーションが、H5N1インフルエンザウイルスの不活性化に有効かを再集合体株を使って調べた。その結果、H5N1インフルエンザウイルスは、エンペロープウイルスと同様の挙動を示し、これらのウイルスの不活性化処理によって効果的に不活性化された。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Curr Opin Hematol 2007; 14: 210-214	赤血球製剤の輸血によるヒトでのvCJD感染症例が報告されている。げっ歯類のTSEに関する実験で、赤血球製剤の感染性は赤血球自体に由来するのではなく、残存している白血球や血漿のような製剤中の他の成分に由来することが示された。vCJD因子がヒト赤血球と結合できないことが示された。vCJDが発生している国の血液サービスは輸血前に洗浄や濾過により感染性のある液相を取り除くことが賢明かもしれない。